



れきけん ニュースレター

vol.10



- 特集：函館旧相馬邸の調査業務を終えて
- 北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座、第三期が終了
- 寿都町橋本家の郷里を訪ねて
- 全国ヘリテージマネージャー大会に参加して
- 一般財団法人北海道建築指導センターより寄付をいただきました！
- おすすめ・れきけんBook

●函館旧相馬邸の調査業務を終えて

函館の元町と言えば誰もが重要文化財旧函館区公会堂を思い浮かべますが、そのすぐ近くにある旧相馬邸が公会堂と密接な関係にあることはあまり知られていないようです。旧相馬邸は、明治中期には市内外に多くの土地を所有するなど北海道を代表する財界人であり、また公共事業等への多額な寄付活動など篤志家としても知られた初代相馬哲平の本宅でした。この一帯は幕末から函館の政治的な中心であった所で、公会堂は旧元町一番地、相馬邸は同二番地に位置し、明治20年代末頃にはここに邸宅を構えていました。明治40年大火で土蔵以外を焼失し、間もなく再建しますが、この一大事にも拘らず、焼失した町会所に代わる公会堂の新築に建設費の大部分を寄付したのが相馬哲平です。

現存の旧相馬邸はこの時に再建した主要部分です。2008年まで相馬家の方が住んでいましたが、旧主屋はほとんど使われず老朽化が進む中、競売後の転売により存続も危ぶまれた所を2009年に現所有者が購入し、修理工事を重ね、2013年より本格的に一般公開されました。黒板塀と石垣で囲まれた550坪の敷地に建つ、巧みな空間構成や意匠と傑出した洋館併設の邸宅建築で、函館はもとより北海道にとっても貴重な明治期の建築遺産です。

所有者からの強い要請を受け、本年の5月より重要文化財指定を目指した調査業務を進めてきましたが、11月末に報告書を完成させることができました。相馬一族の遺稿集や建物写真等を詳細に検討の結果、これまで曖昧であった建設過程と建築年について一定の見解を示すことができました。これまでに「れきけん」が手掛けた重要文化財の旧網走監獄と旧網走刑務所二見ヶ岡支所、国指定史跡の旧歌棄佐藤家漁場に続く4事例目の指定となるべく、その吉報を一同心待ちしているところです。（石本正明）



●北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座、第三期が終了

6月2日(土)から開始したヘリテージ・マネジメント育成講座は、10月16日(日)の受講生による「私が見つけた文化財」報告、考査、修了式を経て、終了しました。今年度は、文化庁補助事業の最終年ということで、フォローアップ事業の参加や補講(11月5日)、さらには11月26日(土)の登録式の基調講演聴講による単位認定など、単位取得の機会を数多く設けました。その結果、ヘリテージ・マネージャーは過年度生を含めて18名、ヘリテージ・コーディネータは11名のうち、登録者はマネージャー15名、コーディネータは10名が登録を済ませています。これまでの登録者は、マネージャーは75名、コーディネータは31名が誕生したことになります。当面、彼らのスキルを発揮する場所が必要となりますが、まずはれきけんが札幌市から受託した札幌歴史的資産調査の調査サポートをお願いしています。今後さらに地域で歴史的資産を次世代に継承する大きな力となることを期待しています。次年度もこの人材育成事業を、文化庁に応募の予定ですが、非採択の場合でも、これまで同様、北海道建築士会、北海道文化財保護協会、れきけんの3者で構成する「北海道遺産活用活性化委員会」(会長角幸博)で事業を継続することを確認しています。将来、本講座の受講者達のネットワーク「北海道ヘリテージマネジメント協議会」(仮称)のようなものの誕生を願っています。(角幸博)

● 寿都町橋本家の郷里を訪ねて

NPOれきけんが近年保存活用に係わっている寿都町にある橋本家の郷里は、福井県あわら市の吉崎です。北前船の寄港地である福井県吉崎浦に隣接するあわら市滝地区の滝瓦が、寿都の橋本家土蔵の瓦の調達先であるという新たな発見に加え、昨年度の調査では吉崎には橋本家の縁者がご存命で、今後の連携が重要であることが認識されたため、関係者で福井県あわら市と石川県加賀市への訪問を実施しました。実施した期間や内容などは、以下の通りです。

● 訪問期間10月10日（月）～12日（水）

● 参加したメンバーは、橋本家第9代当主：橋本敏子さん、橋本敏子氏長女：青山紀子さん、寿都町片岡町長、寿都町教育委員会櫻井係長、NPOれきけん角代表理事、瓦の専門家として株式会社梵陶石代表取締役：林文浩さん、事務局東田の総勢7名

● 主な訪問先

- ① 福井県細呂木公民館にて、竹内館長ほか学芸員等6名との滝瓦についての懇談
- ② 橋本家の菩提寺である吉崎御坊願慶寺にて、和田住職との懇談
- ③ 橋本家のご親戚の皆さんとの昼食と懇談、本家への訪問と墓参り
- ④ 石川県加賀市「竹の浦館」にて、橋本家の持ち船だった長栄丸の船絵馬見学と懇談
- ⑤ 石川県加賀市「北前船の里資料館」にて、学芸員の案内で観覧

橋本家は「吉崎8人衆」と呼ばれており、郷里には多くの足跡が残されていました。また今回の訪問で、滝瓦の関係者の皆さん、橋本家縁者の皆さんは、寿都町での橋本家の展開について大変喜んでおり、これからの調査連携について快諾してくださいました。何よりも、ご高齢の橋本敏子さんやご長女の紀子さんと、町長や私達が一緒に郷里へ行けたことは、今後の橋本家の活用をとおして寿都町にとっても、大変な財産になると感じた訪問でした。お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。これからも、どうぞよろしく願いいたします。（東田秀美）



ご挨拶する寿都町長
（細呂木公民館にて）



・ 車椅子に乗っているのが橋本敏子さん、車椅子を押しているのが片岡町長、右側が従弟にあたる方
・ 指を指しているのは、橋本家が持っていた北前船の長栄丸が描かれている船絵馬（竹の浦館にて）



竹の浦館前で記念撮影

● 全国ヘリテージマネージャー大会に参加して

10月21日（金）～22日（土）全国ヘリテージマネージャー大会が大分県別府市にて開催され、れきけんから東田が参加しました。21日には「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」の総会が、22日は第4回全国大会が開催されました。開催地大分県をはじめとして、震災支援活動も含めた各地の保存活用の取り組みが報告された他、歴史的建造物に対する有効で柔軟な法規制のあり方についても議論され、今後に向けた具体的な行動の重要性が確認されました。全国大会での出会いや学びを、北海道の活動でも活かしていきたいと思っております。（東田秀美）



●一般財団法人北海道建築指導センターから寄付をいただきました

10月19日、一般財団法人北海道建築指導センター様から地域への社会貢献という目的で「創立50周年記念フォーラム」後に開かれた記念祝賀会の席上、当NPO法人に寄付金20万円を頂きました。

かでのホールで開催された記念フォーラムも、参加者の皆様から「大変楽しく有意義な会だった」と感想をお聞きし、会場は満席だったと伺いました。改めまして、北海道建築指導センター様にお祝いと感謝をお伝えしたいと思います。

長きに渡る社会貢献と北海道に根ざした取り組みに敬意を表します。50周年、本当におめでとうございます。そしてこの度のご寄付、本当にありがとうございました。NPOれきけん一同、感謝申し上げます。（鈴木由美子）



●おすすめ・れきけんBook ~れきけんアーカイブ田上義也蔵書より~



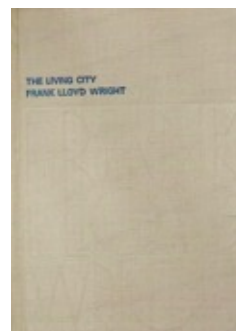
- 近代建築
- 監修：坂倉準三
- 発行者：岩波書店編集部
- 発行所：岩波映画製作所



- デザイン小辞典
- 著者：山口正城 山崎幸夫 塚田敢 福井晃一
- 発行者：遠山直道
- 発行所：ダビット社



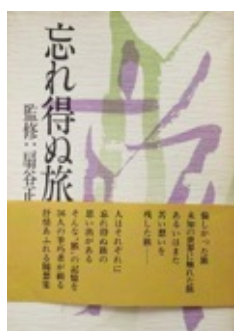
- わたしの道（第1集）
- 編者：北海タイムス社
- 発行者：南河達雄
- 発行所：北海タイムス社



- ライト都市論
- 原著者：Frank Lloyd Wright
- 翻訳著作者：谷川正己
- 共訳：谷川睦子
- 発行者：下出国雄
- 発行所：彰国社刊



- 代謝建築論 か・かた・かたち
- 著者：菊竹清訓
- 発行者：下手国雄
- 発行所：彰国社



- 忘れ得ぬ旅
- 監修：扇谷正造
- 発行者：江口克彦
- 発行所：PHP研究所



- 街路の意味
- 著者：竹山実
- 発行者：河相全次郎
- 発行所：鹿島出版会

(橋本敏明)



今年も残りあとわずかとなりましたが、会員のみなさまにとりましてはどんな一年だったでしょうか。北海道の文化遺産や歴史的な地域資産を取り巻く状況は、昨年は網走監獄の重要文化財登録、寿都のカクジュウ佐藤家の史跡指定など、その存在や価値が認められました。また今年にはヘリテージ・マシメント育成講座の取り組みが最終年を迎え、100名を超える専門職が誕生しました。さらに各地で歴史文化基本構想の策定も始まり、ますます保存活用の動きが加速するのではと期待しています。

一年間、れきけんの活動を応援くださりありがとうございました。どうか良いお年をお迎えください。